

福智山 を歩く

町のシンボルとして、今も昔も人々から愛され続ける靈峰「福智山」。かつては山岳信仰の修験地であり、最澄や空海も山頂で祈願したと伝えられています。父なる山「福智山」と母なる川「彦山川」の恩恵は、多くの実りと多彩な文化を育み、豊かな自然を今日まで伝え残してきました。まだこの地は、豊前と筑前の国境に位置し、人々と英知が行き交うクロスロードとして、地域が誇る資源が息づいています。

陶郷上野を訪れる

四百年の歴史とともに 趣を変えて進化する上野焼

心地よい重さと質感、口あたりの良さと手作りのぬくもり…。目立ちすぎず、かつ存在感のある上野焼は、4百年に渡る時代とともにその趣を変え、今に至っています。

細川忠興が創始した御用窯
遠州七窯を誇る国焼茶陶



侘び茶を大成した千利休の高弟で「利休七哲」の一人として古田織部と並び賞された茶人・大名・細川忠興。その忠興(三斎)が関ヶ原の戦い後、豊前小倉藩主となつた際(1602年)、李朝陶工の尊楷を上野の地に招いて開窯したのが、国焼茶陶「上野焼」です。その後、幕末まで小倉藩主の御用窯、藩主として歴史を刻み、江戸時代には、徳川將軍家茶道指南役の小堀遠州が賞賛した「遠州七窯」の一つとして名を馳せるなど、多くの茶人を魅了してきました。

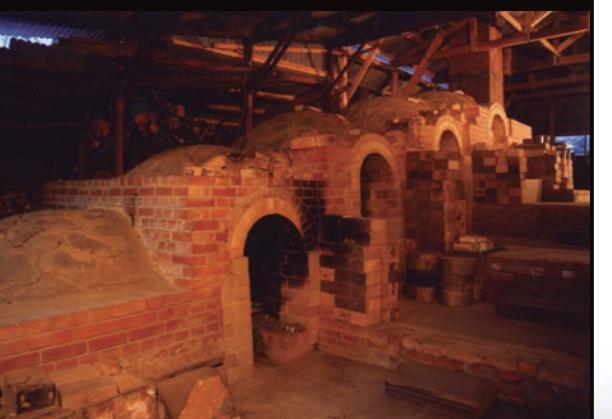


開窯初期は、武家の精神を表すような野趣あふれる作風が特徴で、江戸中期には遠州好みの洗練された「綺麗さび」が器に反映されています。江戸後期以降は、薄づくりや緑青の色彩が作品を特徴付けました。

今日では、伝統に基づく茶器をはじめ、現代感覚が融合した魅力ある作品が、各窯ごとに生み出されています。4百年以上の歴史を誇る国指定伝統的工芸品「上野焼」は、その伝統を脈々と受け継ぎ、新たな歴史を刻みながら作陶の白煙を上げ続けています。

食と器と音楽の要素が融合 上野の魅力体感スポット

上野の里を代表する施設「上野の里ふれあい交流会館」。上野焼協同組合加盟の各窯元の作品を手にとって選べる「上野焼陶芸館」や福智産の農産物や特産品が並ぶ「上野の里ふれあい市」が隣接しています。敷地内には福智町出身の童謡作曲家・河村光陽を顕彰した「協奏の庭」もあり、福智の魅力を満喫できるスポットとなっています。



- 住 所 福智町上野2811
- 休 館 日 毎週火曜日
- 開 館 時 間 10時から17時
- お 問 合 せ 上野焼協同組合 TEL0947-28-5864
- ア ケ ス 平成筑豊鉄道赤池駅からバスで上野焼バス停へ
マイカーでは県道22号線から宮馬場の交差点を北東へ



パワースポットをめぐる

Power Spot

山岳信仰の修験の地、福智山。
悠久のときを生きる古木や滝、人々の祈りと信仰が息づく神社仏閣など
神秘的な「氣」に満ちた場所がここにはある。



1. 福智山腹にひっそりそびえる孤高の一本桜「虎尾桜」。
2. 龍伝説が今なお残る清流「白糸の滝」。落差25m。北九州国定公園内にある落差およそ2mの滝。見飽きることがない神秘の白糸。
3. 岩屋権現の大杉は、在来品種とは形態が異なり、実生によってこの地に繁殖した国内では珍しいものと考えられている。樹高36.2m、胸高周囲4.7m、枝下高9.3mで、今なお成長を続ける。
4. 興國寺仏殿。禅寺の中でも位の高い寺に採用され、興國寺では本尊は本堂にまつられる。禅宗様式仏殿の貴重な建造物。
5. 福智修験発祥の地「福智神社中宮」。長い石段の参道を登ってゆくと緑豊かな福智山に抱かれた中宮が。白鳳元年(650年)に開山。福智山頂に「上宮」、麓には「下宮」がある。